

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100167		
法人名	社会福祉法人 錦江舎		
事業所名	グループホーム 夢眠かに		
所在地	岐阜県可児市今渡1619-137		
自己評価作成日	令和7年1月5日	評価結果市町村受理日	令和7年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2193100167-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1年を通し季節を感じていただけるよう、季節の行事に力を入れている。落ち着いた環境でゆっくりコミュニケーションをとり、居心地よい温かい生活、安心、安全な生活が送れるよう努めています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、公道に面した同一法人の地域密着型の特別養護老人ホームの敷地内にある。周辺には、一般住宅も立ち並んでいるが、静かで落ち着いた環境が保たれている。共有スペースからは、職員と利用者が育てている野菜の生育ぶりや、季節ごとの花を眺めながら過ごす事が出来る。また、公道に出ることなく、安全に敷地内を散歩することが出来る。同法人特養との協力体制が整っており、毎日、利用者の健康管理や服薬支援では、特養の担当看護職員が行なっている。職員は、常に利用者一人ひとりの思いに寄り添い、穏やかな声かけとケアを行うよう心掛けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、職員は常に念頭におき実践に努めている。	理念である「尊重・尊厳・尊信」を、常に職員が確認できるよう事務所に掲示している。理念についての周知や理解の確認は特に行っていないが、職員は、日々、利用者に寄り添う気持ちを大切に支援している。	常に利用者の気持ちに寄り添うことが、理念の基本である。住み慣れた地域で利用者一人ひとりが安心して暮らせるよう、全職員に理念を周知し、日々、確認しながら、実践に繋がりたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ予防対策としてあまり交流できていない	現在、感染症対策として、保育園児との交流を中止しているが、状況を見ながら再開したいと考えている。近隣住民からは、果物や野菜の差し入れ等がある。近隣には若い世帯や外国籍の住民が多く、交流方法に工夫が必要と考えている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議を開催し、利用者様の状況報告等を話し合い、参加者の意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用者状況や職員勤務状況、事故・ヒヤリハット、行事報告等を行っている。市町村担当者や家族の出席もある。議事録は玄関に掲示している。家族には口頭で伝えている。	玄関に掲示した議事録は、家族が来訪した場合は確認することが出来る。面会に来られない家族には、請求書等と一緒に送付するなど、事業所の現状を伝える工夫に期待したい。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき実際の活動報告を行い相談するなどし連絡を取り合っている。	運営推進会議に市町村担当者の参加を得ており、情報を共有している。入居に関する問い合わせは少ないが、各種報告や情報交換は出来ている。電話での相談や質問をしながら、助言や指導を受けている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会等で身体拘束の意味を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の適正化検討委員会及び法定研修を定期的に開催し、身体拘束をしないケアに努めている。委員会では、スピーチロックや行動制限をしないケアについて協議し、会議録は回覧している。確認した職員は、サインする方法で全体に周知している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に積極的に参加し、会議委員会にて防止策等の話し合いを行っている。	定期的に虐待防止委員会を行い、法定研修も開催している。研修後は、参加した職員も参加できなかった職員も、資料を確認した上で、各部署ごとにレポートや感想等を提出し、確認合っている。		

岐阜県 グループホーム夢眠かに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての資料を閲覧できるようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書、重要事項説明書を詳しく説明し、不安、疑問点を尋ね、話し合い理解と納得を図っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見等があればいつでも、連絡していただけるように家族にお伝えしている。	インスタグラムで事業所の活動を発信しており、若い家族の関心が高まっている。運営推進会議に参加した家族や、面会・電話連絡の際に意見や要望を聞いている。感染症対策として、面会制限を設けていたが、家族からの要望があり、面会方法を検討し対応に取り組んでいる。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全スタッフに毎月アンケート用紙を配布し会議の議題にしている。	毎月、全職員に利用者のケアやサービスに対するアンケートを取り、その結果を職員会議で話し合いながら運営に活かしている。普段の業務の中でも、管理者は職員から直接意見や相談を受けており、適宜対応している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。	休憩室に職員個々のレターケースを設置し、アンケート用紙の配付や個別連絡に利用している。職員も、管理者と話しやすい関係が出来ており、業務内容や勤務体制等、意見や要望を伝えることが出来ている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設以外での研修会も受講し職員の質の向上に努めている。	隣接する特別養護老人ホームの施設長の行き来もあり、年に一度、職員面談を実施している。外国籍の職員への配慮や指導を行っている。認知症介護基礎研修の受講支援もある。産休や育休制度があり、現在、育休中の職員もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修など他施設職員との交流をもち、サービスの質の向上に反映させている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを職員と一緒にやり、自己決定や選択など共に暮らす関係に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し、意向に添える様に努めている。また困難な場合は家族に支援をお願いし協力いただいている。	日々のケアの中で、利用者一人ひとりの思いを聞きながら、ケアに活かせるよう心がけている。また、表情や仕草を見ながら職員が言葉で伝え、確認をしたり、家族にも、利用者の好きなことを尋ねている。新たに知り得た情報は、家族及び職員間で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、職員間で報告、連絡、相談を行い、チームケアとして、その時々々の現状に応じた介護計画を作成している。	介護計画は、家族に意向を確認し、モニタリングを行なった上で作成している。作成後は事務所に掲示し、職員は確認とサインをしている。家族の意向を反映させた介護計画を家族に郵送し、確認と返送を依頼している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の実践・取り組み・気づき等を記入し、職員同士で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。	個別記録には、経過記録や特記すべき支援内容をセンター方式の書式に手書きで記録している。外国籍の職員はローマ字で書いても良いとしているが、今後は、ひらがなで書けるように支援、指導している。	個別記録には、ケアプランを意識する為の毎日のチェック項目がある。チェックがない日が多く、様式が活かされていない。今後は、適切な記録が、より良い介護計画の実践、見直しに繋がることを期待したい。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人ひとりに合ったサービス提供を心掛け、柔軟性をもって個々の希望に沿ったサービスの提供に努めている。	家族からの依頼で、排泄用品や身の回りの物の買い物代行を行なっている。希望がある場合、利用者と一緒に出かける事もある。また、家族から預けられたヨーグルトを、利用者に毎日提供する等、家族のニーズに応じて、支援している。	

岐阜県 グループホーム夢眠かに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民の方とコミュニケーションを図っている。信頼関係を継続できるようにしている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築き、適切な医療が受けられるように支援している。	契約時に、従前のかかりつけ医の継続ができることを説明している。多くの利用者が、現在、協力医の往診を月2回受けており、看護師とケアマネジャーが対応している。指示内容は連絡帳に記録し情報を共有している。隣接施設の看護師とも連携し、日常的に服薬支援や健康管理を行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、安心して治療に専念できるよう家族・病院関係者と密に情報交換し関係づくりに取り組んでいます。	入・退院時は、主治医からの診療情報提供書で入院先と情報共有をしている。利用者の状態は病院と連絡を取り合いながら確認している。退院カンファレンスには管理者や看護師、職員が出席し、退院後の支援に向けて、再度、主治医に診療情報等を提供している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の方と話し合い、事業所でできることを十分に説明を行っている。医療機関とも情報共有し行っている。	重度化や終末期に向けた支援について、事業所ができる事を利用者や家族に伝え、同意を得ている。状態変化があった場合は、家族と相談し希望を聞いている。要介護3になった時に、家族から施設に移りたいとの希望が出ることもある。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や日頃の看護師の指示にて急変時の対応・感染症に対する対応を学んでいる。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災避難訓練を行っている。避難誘導を効率よくできるように話し合い取り組んでいる。	避難訓練は年2回、通報訓練や避難誘導を実施している。独自のBCPを策定し、備蓄品は水や非常食を3日分準備している。実際に非常食を食した時に、割りばしは使いづらく、フォークやスプーンを準備するなど、改善に繋げることが出来ている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格の尊重や丁寧な言葉がけ、誇りやプライバシーを損なわないように会議で話し合いを行っている。	新人研修時に、接遇について資料を渡している。また、毎年4月に接遇マナーの資料を配布し、自覚を促している。毎月、複数名の利用者への支援について、職員の対応等が適切に行なえているかを話し合っている。入浴支援時に、プライバシーや誇りを損ねることのないよう、暖簾や衝立が設置してある。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望や想いを発言できるよう働きかけ自己決定ができるよう努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、1人ひとりの体調・気分を把握し、希望に沿った支援を心掛けている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント食では、日常の会話より個々の好みを把握し可能な限り好きな食事を提供している。利用者様と一緒に盛り付けや食器拭きをしている。	配食サービスの副食は、利用者が扱いやすい容器に入っている。ご飯と汁物は、事業所で調理し、お粥や刻み食など、利用者の状態に応じた形態で提供している。誕生日には、焼きそばやお好み焼き、綿あめ、フレンチトースト等、利用者が食べたい物を用意している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れた食事提供を行っている。食事・水分量は毎食チェックし個々の状態や習慣、嗜好に応じた支援を行っている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じ、一部介助や声掛けを行っている。できない方は職員が介助している。治療が必要な方は家族に同意を得て訪問歯科に依頼している。	毎食後、口腔ケアを行っている。自分では見守り、義歯洗浄が難しい人は職員が手伝っている。夜間帯は義歯を外し管理している。治療や義歯の調整が必要な利用者には、家族と相談し訪問歯科につなげている。職員は、歯科医による口腔ケア研修や歯ブラシ指導も受けている。	

岐阜県 グループホーム夢眠かに

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立で排泄できる方の見守りと介助が必要な方の排泄パターンの把握を行い、個々の能力に応じた排泄援助を行うことでできるだけ自立に向けた支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴で体調や気分に合わせて変更している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれる様に、状況に応じた衣類・室温調整を行っている。利用者様の状況に応じ休息して頂いたり気持ちよく眠れるよう環境を整えている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、容量を理解し、症状の変化に気を配り医療連携を基に医師の協力を仰ぎ服薬支援に取り組んでいる。	薬剤師が薬を管理し、医師の指示の変更など留意点を書面にして職員に伝えている。隣接施設の看護師が配薬支援を行っており、誤薬がないよう努めている。職員も薬の確認には細心の注意を払い、業務日誌に服薬支援担当者を記録している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのやれる力を活かした役割をみつけ支援している。毎月の行事、カラオケなど楽しんで頂いている。	職員は利用者の希望や生活歴を参考に、役割や楽しみごとを継続できるよう支援している。食事の盛り付けや洗い物、食器拭きや菜園で育てた野菜の収穫、また、皆で歌を唄ったり、利用者が好きな事をできるよう職員も一緒に行っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化に応じ、天候やその時の体調を把握し、外出支援を行っている。	天候に合わせて、玄関先で外気浴を兼ねながら、お茶や食事を楽しむなど、気分転換を図っている。周辺を散歩したり、食べ物を持ってピクニックに出掛けることもある。近くのドラッグストアまで、職員と一緒に買い物に出かけることもある。	

岐阜県 グループホーム夢眠かに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員で行っている。職員と一緒に買い物に行きお金を使えるよう支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方への電話連絡等は本人の希望に応じ、いつでも電話できるように支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、温度などに気をつけ管理している。また、季節を感じて頂けるように季節感を取り入れた掲示物飾りつけを行い、居心地よく過ごせるように努めている。	現在も感染予防対策を徹底しているため、入室しての見学は叶わなかったが、調査時は、庭に面する明るい居間で利用者がテレビ観賞をしており、懐メロが流れていた。カーブミラーを使って、職員に見守りの死角が出来ないよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所でゆったり過ごせる様にソファやテーブルを配置し、自由に居心地よく過ごしていただけるよう努めている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方らしく使いなれた物を持ち込んでいただき本人が安心できる居室作りに努めている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の安心・安全に心がけ、日時が分かるようにカレンダーを取り付け自立した生活ができる様に環境作りを行っている。		